

『虞美人草』勉強中の不思議な夢

Junko Higasa 2013.11.16

夢の中で髷を結った若い女性が「相談に乗ってほしい」という。話を聞くことになった茶屋の入り口には、願い事が書かれた何枚もの短冊が貼ってある。その女性が自分の書いた短冊を示して「字が変ですか？」と聞くので、見ると「づ」と書くべきを「ざ」と書いてある。茶店の中で女性が私に「夫に対する手紙を 226 文字ぐらいでまとめてほしい」というところで、ドンという物音を聞いて突然目が覚めた。

226? まず思い浮かぶのは青年将校たちが「天皇親政」を天皇に直訴して「叛乱軍」として処罰された二二六事件である。「天皇親政」といえば『虞美人草』背景に流れる桓武天皇の歴史の中に含まれている。そして芥川龍之介がそこから読み取って書いた『鼻』と『吾輩は猫である』第三章の金田夫人に対する『あんな鼻をつけて来るから悪いや』という、行動が目立つ理由に結びつく。それからもう少し考えた。すると刑法 226 条-2 に「人身売買」がある。これは『吾輩は猫である』第六章で、結婚を考える寒月君のために語られる迷亭と老梅君の失恋話から発展して、迷亭が持ちだす話である。「昔は女の子を唐茄子のように籠へ入れて天秤棒で担いで売ってあるいたもんだ。けれど明治 38 年の今日そういうことはなくなった」だから迷亭は女性の品行も進歩したと考える。

果たして夢の中の女性は、女性の進出を夫に理解させる手助けをしてほしいと願ったのだろうか。